

日本家庭医療学会会報

第51号

発行日 2004年11月20日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : jafm@a-youme.jp

医学生・研修医のための 第16回家庭医療学夏期セミナー

医学生・研修医のための
第16回家庭医療学夏期セミナー

プログラム

開催日時 2004年8月7日(土)~9日(月)

場 所 セミナー会場1
長野県社会福祉総合センター
セミナー会場2
長野市若里市民文化ホール
セミナー会場3
信州松代ロイヤルホテル

参加者数 191名
内訳 医師(研修医以上) 63名
学生 127名
マスコミ 1名
講師数 59名

1日目

「家庭医とは何か」

2日目

「家庭医に必要な知識・技能・態度を理解する」

3日目

「生じた疑問、不安を解決する」

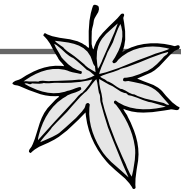


家庭医療学夏期セミナー感想

第16回家庭医療学夏期セミナー実行委員長
信州大学4年 井田 耕一

オリンピック直前の夏真盛りの時期、200名もの参加者が60名の講師による家庭医療学を体験するためここ長野に集いました。日中行われたセッションで参加者は、耳慣れないけれどもどこか興味ある話題に引き込まれ、楽しく時には真剣に議論や質問などしていました。一方、夜の懇親会はさらに密な空間となり、講師と参加者の間に日常あまり目にしない、お互い何かを共有しているような雰囲気さえ漂い、たいへん感動しました。

この号の主な内容



第16回家庭医療学夏期セミナー報告	1
運営委員会報告	4
リレー連載「診療所研修」	5
事務局からのお知らせ	6

家庭医とは？

帝京大学医学部5年 加藤 光樹

疾患だけではなく、家族や地域といった患者の背景までも含め患者を全人的に理解し、医療者を中心とするのではなく、患者を中心とした医療が、家庭医療という言葉が広く知られる随分前から、今も昔も変わらず存在するという内容に深く感銘を受けた。

家庭医療へのレシピ -

帝京大学医学部5年 加藤 光樹

家庭医療の“核”の部分を理解した上で家庭医療を学んでいくということと、それを知らずに家庭医療の医学的な守備範囲のみを意識して学んでいくということでは、将来的な家庭医としてのあり方がかなり異なってくると感じた。

家族へのアプローチ

新潟大学4年 漆原 由佳

ライフステージも見ている方向もばらばらな、それでも家族。ある医療面接での家族、医師役から感じたことを共有し、家族がチームとしての力を得て動き出すサポートのできる医師（将来の自分）に近づくロールプレイ。

患者教育

信州大学6年 並川 涼

LEARNのアプローチについて解説を受けた後、ロールプレイをしました。改善点を具体的にご指摘いただき、デモンストレーションも提示していただきました。印象深く記憶に残る、有意義なセッションでした。

予防医学・患者医学

名古屋大学5年 山下 達也

ロールプレイを行い、けんしん（検診、健診）の利益と害について議論し、実際の予防医療についてレクチャーを受けた。予防医療は利益が害を上回るという科学的根拠に基づいて実践されなければならないと強く感じた。

臨床判断学

新潟大学4年 漆原 由佳

主訴に始まり、先に「診断」を見据えながら情報収集と仮説、検証を繰り返す道中では次々に瞬時の判断を迫られる。参加者とその道筋を辿りながら、治療閾値など臨床判断に必要な、強力なツールとしての概念を紹介。

臨床倫理

名古屋大学5年 山下 達也

臨床現場で生じる倫理的問題を認識し、解決する方法を学ぶために、レクチャーの後、具体的な症例について、「四分割法」を用いてグループ討論を行った。臨床倫理問題を解決する際の難しさやジレンマも痛感した。

在宅ケア実践編



信州大学4年 井田 耕一

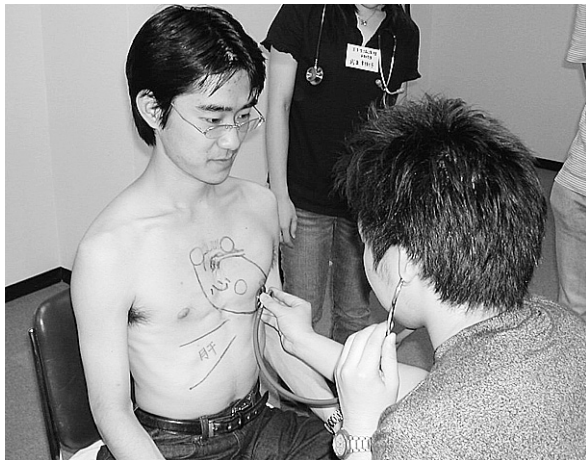
実際に現場で先生が悩まれた症例を検討し、我々ならばどう対応したのかをグループ中心で議論しました。幾通りか方法はあるものの一筋縄では行かない難しさを学びました。先生の打明け話に非常に感銘を受けました。

身体診察実践編

滋賀医科大学6年生 松井 善典

涌波先生のフィジカルレクチャーというスペシャルイベント付きで、実際の症例を通して検査前確率や尤度比の意味や言葉を知り、経験や直感だけでなく、Evidenceを利用した診断を絞り込むための身体診察を学ぶことができた。

身体診察実践編



筑波大学医学専門学群5年 津田 修治

身体診察の所見から尤度比を用いた確率論的な臨床診断のアプローチについて症例を通して学びました。すぐに実践可能な形で教えていただき、今後意識して用いて練習していこうと思いました。

Narrative Based Medicine

新潟大学4年 漆原 由佳

医療者のできること - 寄り添って「光を当てる」ことが、埋もれていた患者の物語を掘り起こす経験を参加者に共有。アプローチとしてのEBMの補完を超えその方らしい生き方の場面を拓くNBMの遥かな可能性を伝える。



札幌医科大学6年 小山 典亮

このセッションはALSの患者さんの物語であった。胃ろうを付けたあとに元気がなくなった患者さんの人生を物語にするという内容だった。治らない病気の患者さんにどのように接したらよいかを考えさせられるセッションだった。

新潟大学医学部医学科四年 前川 道隆

ALSを患った患者さんの死へ至る過程を題材にし、最期を迎えるためのより良い環境作りについて議論した。人生の最後のステージである死を迎える事について考え、医師としての関わり方にも考えを巡らす事ができた。

リハビリテーション

筑波大学医学専門学群5年 津田 修治

リハビリテーション医療の生活を支える視点について症例を通じてお話いただきました。創意工夫して患者さんの衣食住のニーズに応え、患者さんの笑顔につながる姿勢に強い感銘を受けました。

筑波大学医学専門学群5年 津田 修治

リハビリテーション医療の生活を支える視点について症例を通じてお話いただきました。創意工夫して患者さんの衣食住のニーズに応え、患者さんの笑顔につながる姿勢に強い感銘を受けました。

日本家庭医療学会運営委員会議事録

日 時：2004年8月8日 7時00分～9時00分

場 所：松代ロイヤルホテル（長野）

参加者：山田隆司、葛西龍樹、竹村洋典、津田 司、伴信太郎、内山富士雄、
岡田唯男、梶井英治、木戸友幸、武田伸二、名郷直樹、藤崎和彦、
藤沼康樹、前野哲博、松下 明、（三瀬順一）

会長挨拶：近年家庭医療に対して熱意ある学生が多く集っている。家庭医療学会としてはこうした若い会員の期待に応えるべく体制を整えていきたい。

本年よりあゆみコーポレーションに会員管理、会計報告等事務局業務を委託しているが、事務的に調整しにくい案件に関しては、地域医療振興協会公益事業部で補佐的作業をしている。

1. 会員数報告，新入会員承認，退会者報告

現状：学生会員も含め1,070名

新入会員132名 承認

退会者 2名 承認

会費未納者へ督促状を送付。期末に再度確認督促を行い未納者は退会扱いとする。

中間決算報告：1,000万円程の預金残高。正式決算は次回報告。

2. 第12回春のワークショップ決算報告（武田）

¥257,157の黒字。

来年はWONCAがあるため春のワークショップを夏に同時開催の予定。

3. 第19回学術集会準備経過報告（梶井、三瀬）

11月6日（土）7（日）さいたま市大宮ソニックシティにて開催予定。

今回会費は従来通りで次回以降は会場費を考慮して検討。

シンポジウム座長は、運営委員会の立場から会長が選任。

次回運営委員会は11月6日（土）10:00～12:00。

4. 第20回学術集会準備経過報告（山田）

2005年5月27日～31日WONCA Asia Pacific Regional Conference（世界家庭医会アジア太平洋地区会議）

プライマリ・ケア学会、総合診療学会と共同で京都国際会館にて開催予定。

5月28日（土）、29日（日）に家庭医療学会の時間・会場が確保されている。

5月28日（土）午後3時～ Room A（240人収容、総合診療学会の後）

5月29日（日）午前10時～午後5時 Room G（200人収容）

今後WONCAの組織委員会と協調して内容について検討していく。

5. 常設委員会報告

編集委員会……学会誌：9月発行予定。会員以外の投稿についても要検討。

広報委員会……第1回広報誌発行、夏期セミナー後次号発行、Webサイト更新報告。

研修委員会……春のWS：全体研修プログラムが課題、夏期セミナー：現会場では限界今後要検討。

研究委員会……研究認可制度の提案について承認。学会の倫理委員会等今後詳細を検討。

（プライマリ・ケア、家庭医療の研究機関に所属していない先生が研究時倫理委員会の申請が困難ということで、学会独自の倫理委員会を立ち上げ審査していく方向。）

学会賞の提案について承認。学会賞は5題程度選出。詳細は今後更に検討する必要がある。

課題研究はテーマ「日本における家庭医療研修プログラムの検証」で募集していくことを承認。

家庭医療研修現状把握調査へ協力。

専門医委員会

6. プライマリ・ケア教育連絡協議会報告（次項で）

7. 認定医外部評価機構について

プライマリ・ケア学会、総合診療学会と家庭医療専門医の名称で第1群を目指す方向が提案されている。
今後3学会で研修プログラムの認定、統一試験の実施も検討されている。

8. 海外団体との交流について

昨年RCGP（英国家庭医学会）前議長の訪日
RACGP（オーストラリア家庭医学会）との協調
RCC（アメリカ家庭医学会研修評価委員会）からの招待 9月21日～（山田、葛西で参加）

9. その他学会が共催する集会等について

2006年もプライマリ・ケア学会との共同開催が提案されている。
8月22日（社）地域医療振興協会と共催で学術講演会を開催。学会負担はなし。

10. WONCA 2005におけるPost Conference Workshopについて

アジア各国より多数参加の予定。

11. 役員の旅費について

宿泊費：一泊一万年で統一。

12. 会員へのDMについて

リストは外部へは出さない。

13. その他

次回は年度決算報告の予定。事業計画も検討していく必要がある。



診療所 研修

田坂 佳千
田坂内科小児科医院

広島市中区にて町の診療所の三代目を継承し開業医療に身をまわっています田坂です。川崎医大を昭和56年に卒業し、臨床病理学教室、総合診療部、呼吸器内科をベースにローテーション研修を積みながら、診療所の継承を意識した研修を見つけました。しかし、なんだか少し感じが違うので

す。米国やカナダでは家庭医療学という講座があり、すぐに役立つ開業医を育てるシステムが30年前(現在から言うと40年前)から機能していると聞き、92～93年にかけて1年間見学にまいりました。そこでは医学教育は外来に大きくシフトし、市中の診療所が医学教育に大きく関与し、医学生も研修医も開業医の診療所や教育機関のサテライトクリニックを中心に医学教育がなされ、医学生～研修医～勤務医～

開業医～大学教員もお互いに境することなく一体となって、診療も教育(相互)もなされていました。本邦では、病院vs診療所、勤務医vs開業医という構図が大きく存在しています。しかし、患者さんは両者の間を必要に応じ行き来し、医学・医療として一連の一体的な機能を果たすことが社会から期待されています。この両者の障壁は次第に低くなっている様ですが、根本的な撤廃には程遠いと感じています。「病院vs診療所」ではなく、「病院&診療所」として有効に機能するには、診療所研修とそれに伴う人的交流が突破口となると信じます。特に、低学年の医学生の時期から研修終了まで、定期・間歇的に診療所の医療の視点からも医療を観察することは、今後の日本の医療にとって大変重要な意味を持つと考えます。(生涯勤務医を続ける医師こそ開業医療を知っていただく必要があります。現在その機会は皆無です)

開業後に初めて開業医療の魅力や必要性を悟る元病院医がいかに多いことか。

事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約550名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号(学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています)

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。

異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号

あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6447-0900

E-mail : jafm@a-youme.jp

ホームページ : <http://jafm.org/>

編集後記

新米役員として会報の編集を担当していますが、なかなか慣れないものです。次号から生涯教育CMEに関する内容を載せる予定です。ご期待を！



入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

発行所：日本家庭医療学会事務局

(あゆみコーポレーション内)

会報誌担当役員：木戸友幸・田坂佳千

会報誌編集担当役員：松下 明

〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1

奈義ファミリークリニック

E-mail : akimat@mb.infoweb.ne.jp